

おおとしあわせ Information



大歳地域でイキイキと活躍している人達をご紹介します！

安心安全部会が 「交通安全優良団体」表彰

この度、大歳自治振興会の安心安全部会（米屋泰宏部会長 18名）が山口警察署と山口交通安全協会から交通安全優良団体として表彰されました。安心安全部会は①「生活安全」②「交通安全」③「犯罪の起こらない環境づくり」を柱に、「大歳地区での事件や事故のない“安全で安心なまちづくり”」に取組んでいます。米屋部会長によると『今回は、この中の子どもや高齢者の交通事故防止、交通安全意識の高揚、交通危険箇所の点検を行なう「交通安全」の取組みに対して表彰されたもの。具体的な取組みは、子どもの交通事故防止

交流列車おおとしとワークステーション 合同防災訓練、勝井自治会防災訓練を開催

12月12日(月)10時から交流列車おおとしとワークステーション合同防災訓練を開催しました。

参加者27名、大歳消防団3名 計30名で通報



訓練・避難訓練・消火訓練・AED取り扱い訓練を行いました。

また、12月18日(日)9時半から勝井上公会堂において勝井自治会防災訓練を行い、小さいお子さんも含む19名の参加で、バケツリレー消火訓練等を実施しました。

**交流列車おおとしとワークステーション
の合同防災訓練の様子**

勝井自治会の防災訓練の様子



編集
後記

平成29年の新しい年を迎えました。一年の計は元旦にありといわれますが、皆様はいかがですか。そこで脳裏に浮かぶのは《方丈記》の序文です。ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にはあらず。淀みに浮かぶたかたは、かつ消えかつ結びて、ひさしくとどまりたる例えなし。世の中にある、人と棲む、またかくのごとし——。以下省略しますが、再読して感銘を深くしています。（堂迫）

まちづくり かわら版 おおとし

2017.1
Vol.43



大歳初の試み!

4自治会合同防災訓練

上湯田上 上湯田下
上矢原 周布団地

11/26
(土)

11月26日(土)朝9時、防災無線から1分間サイレンが2回甲高く鳴り響いて、防災訓練が始まりました。サイレンを聞いたら直ちに家を出て上矢原第1公園に集まるのです。車いすを押しながらやってくる人(この日のための訓練用)、緊急避難グッズをつめたリュックを背負ってくる人、大半の人が動きやすいシューズをはいてやってきました。

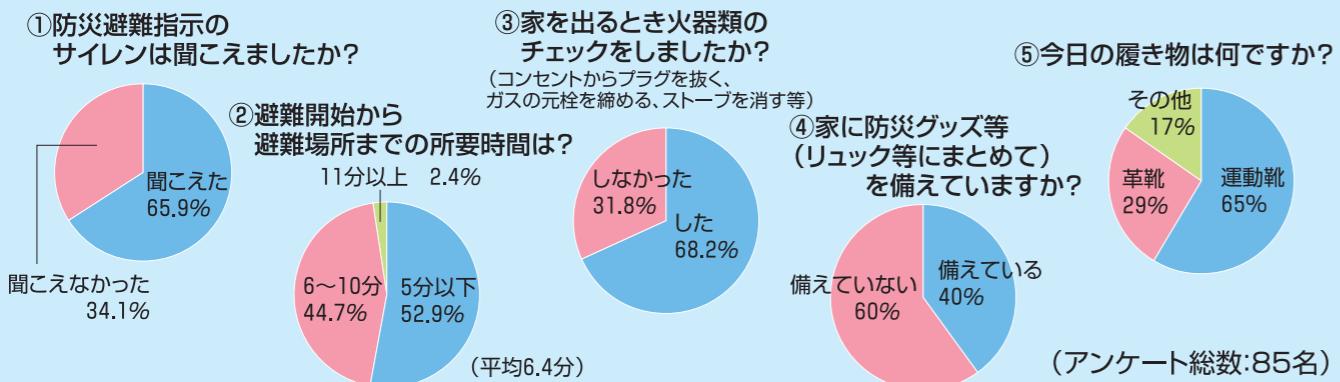
上湯田上、上湯田下、周布団地、上矢原の4自治会が合同して行った防災避難訓練風景です。吉富上湯田上自治会長が「突然襲う災害の前に人間はあまりにも無力であり、日頃の準備以外に被害を最小限にすることはできないことを胸に刻んで生きていくましょう」と挨拶した後、幸坂美彦防災アドバイザーが「実際の災害に遭遇すれば、訓練

した以上のことはできません。まさに備えに勝るものなしなのです」と前置きして、「防災グッズを本気で準備してほしいし、今日は絶好の訓練びよりですが、もし雨天なら雨具が必要ですし、夜間ならライトが必要になります。いかなる天候にも対処できる準備もお願い致します。また活断層が3本も通っている大歳の地形を考えれば地震への対応も絶対に必要になってくる。まず、自分がすぐ避難できる態勢を整えておくこと。隣近所の人の安否を確認し、一緒に避難すること。こうした行動は実は簡単にはできないことを肝に銘じておきましょう」と話しました。

最後に、消火訓練とAEDを使用しての救命訓練を行って合同訓練を終えました。

アンケートの結果

災害時を想定し、避難する際の参考にしてください。



防災訓練を
終えて

- サイレンの音が聞こえなかったと言う方がたくさんあり、地域の連絡網づくりが課題として浮かび上がってきました。
- 訓練会場に行くだけではなく、家を出る前に、必ず火を消し、動きやすい服装と履き物で避難することが最低条件です。

いざという時に備えましょう



自由気ままに健康づくり 365日ラジオ体操!

朝6時半の矢原河川公園広場、ラジオから流れるかけ声に合わせて今日もラジオ体操に励む人々。

参加者は50人を越えたり、数人になったり、まさにお天気次第ですが、365日欠かしたことがないのが自慢です。「いつ頃から、誰がいいだしたのやら」あいまいながら、地域の人に愛され続けたラジオ体操会。平成27年度には「やまぐち元気いき大賞」も受賞しました。



体操の前に馬頭観音にお参りしてから



「やまぐち元気いき大賞」
授賞式の様子

大歳歴史の散歩道 Vol.22

桜田門外の変で、大老井伊直弼が暗殺され、幕府の強硬路線は破たんします。幕府が公武合体(朝廷との宥和)路線に転換すると長州は安政期までの「突出せず、雄藩と連携」の方針を改め、積極的に中央に進言を始め、文久元年(1861)長井雅楽の「航海遠略策」(挙国一致して改革を進め、積極的に海外進出を行う)をもって朝廷と幕府を説き、危機にあたろうとします。しかし、やがて政之助はこれが和宮降嫁など幕府の権力回復に利用されているだけではと疑い始め、その年の末、「遠略策」の朝廷への周旋を阻もうとして2度目の失脚をします。しかし、複雑な政治情勢への的確な対応のためと政之助待望論がわき起こり、翌年3月には中枢に復帰します。早速、政之助は「將軍家茂が京都へ登り、朝廷と協力すべき」と幕府に建白することを提案します。こうした変化球の投げ方に政之助の政治感覚の鋭さがあらわれています。「遠略策」をめぐる藩論の分裂を避け、かつ薩摩の

島津久光が兵を率いて京に入り、朝廷の勅使とともに江戸に下り、幕政改革を断行するというはでなパフォーマンスで世の注目を浴びる分、「遠略策」の行き詰まりで影の薄くなっていた長州藩の危機を絶妙なタイミングで救うことになりました。

長州の提案はやがて実現しますが、これが朝廷優勢の力関係を生み出す元ともなりますから、歴史は皮肉です。

政之助は「開國か鎖国か」は將軍入洛によって話し合いの道が開けた朝廷と幕府の決定に従うと藩論を方向付け、事実上「遠略策」の放棄に道を開き、この年の7月、長州は「航海遠略策」を破棄し、「破約攘夷」を新たな藩是とします。(文責 武波)



長井雅楽
ながい うた

*長井雅楽…萩出身、長州藩の直目付。開国論者で公武一和に基づいた「航海遠略策」を唱えた。